

国語教育相談室

中学校

no.

76

光村図書



特集

新しい教科書の行方

対談

高木まさき
宗我部義則

「学力」向上のための
教科書の役割

三浦登志二

米倉斉加年さんを
悼む

書写

教えて！
紙のこと

児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行

2015年4月で、
復刊
10周年!

「飛ぶ教室」は、石森延男、今江祥智、尾崎秀樹、河合隼雄、栗原一登、阪田寛夫各氏が編集委員となり、子どもの本と子どもの文化を掘り下げる総合誌をめざして、1981年に発刊した児童文学雑誌です。作家の個性があふれる童話や短編、絵本のかき下ろし作品のほか、作家や作品の魅力に迫るインタビューや座談会など、読みごたえある企画満載です。



◎ 各号の詳しい内容は光村図書ウェブサイトをご覧ください。
◎ 「現在品切れ中」の表示以外の号はご購入いただけます。
お近くの書店などでお申し込みください。

第39号(2014 秋)
特集「二宮由紀子×森絵都」

定価：本体1,000円＋税 / ISBN 978-4-89528-845-3



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.162 2015(平成27)年1月30日発行
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝株式会社 加藤文明社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

どんな名前に？

早稲田大学教授
森山卓郎

弟が中学生の頃だったか、にやにやしなから「お兄ちゃん、森鷗外のホンマの名前知ってるか」と言ってきたことがあった。「シンリン・タロウ、言うのやで」。――墓碑銘の話が有名なので、「森林太郎ノ墓」の写真でも見たものらしいが、読み方も切り方もおかしい。「シンリン」に「タロウ」とくれば、なんだかコメディアンである。漱石（本名：金之助）、鷗外（本名：林太郎）、泉鏡花（本名：鏡太郎）、というように、明治の文豪は名前を雅号にする例が多い。田山花袋（本名：緑弥）も、島崎藤村（本名：春樹）も雅号。一方、志賀直哉、武者小路実篤、芥川龍之介、宮沢賢治、川端康成など、活躍時代が大正、昭和以降になると本名のままという作家も多くなる。太宰治（本名：津島修治）や三島由紀夫（本名：平岡公威）のようにふつうの名前のようなペンネームもある。

俳人の場合は本名のもじりがおもしろい。高浜虚子は本名「清」。対する河東碧梧桐の本名は「秉五郎」。「へいごろう」が「へきごとう」になっている。山口誓子は「新比古」をもじって別の漢字にしている。それぞれ、音だけでなく漢字の選び方もおもしろい。最近の子どもたちの名前の中もある意味で凝ってきている。命名での漢字の使い方が少し変わってきているのだ。例えば「優」を「ゆ」とだけ読ませたり、「翔」を「と」、「桜」を「さ」と読ませたりする用字法が見られる。本来、「優」の音読みは「ゆう」だが、その一部だけが使われていることになる。また、「翔」の訓は「とぶ」という「語」が対応するのだが、その訓読みの一部を切り離して「と」という音としてだけ使うのである。「桜」の「さ

くら」を「さ」という音として使うというのも訓読みの一部の音の借用。この流儀でいくと「樽曇浪浮」で「たくらう」と読ませることもできてしまう（「多苦劣」よりマシ？）。もっとも、「安」が「あ」、「止」が「と」というように、仮名の起源をたどってもわかるとおり、音読みや訓読みの読み方の一部の音に対応させてその漢字を書くという使い方は古くからあった。みんなが人名での「優」「翔」「桜」という字をそれぞれ「ゆ」「と」「さ」のように読むようになってくれば、それは新しい慣用の成立ということにもなる。

用字だけではない。人名の漢字は常用漢字と法務省認定の人名用漢字だけだが、そこにも「穹、禰、巫」等の追加がある。ただ、名前を読むときには用心が必要。森林・太郎なんて勘違いさえあるのだから。

CONTENTS

探検！言葉の森 25 どんな名前に？ 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 「読書感想文」よ、ありがとう。 森下佳子

特集 04 新しい教科書の行方

対談 これからの時代を担う子どもたちに 高木まさき・宗我部義則

デジタル教科書の可能性
デジタル教科書がやって来た 松阪市立三雲中学校
「新しい知」の創造 中橋 雄

「学力」向上のための教科書の役割 三浦登志一

米倉斉加年さんを悼む 22 米倉斉加年さんからのメッセージ

読み続けたい、読み続けてもらいたい 米倉日呂登
米倉さんのキーワード 安彦道代

書写の用具研究 3 28 教えて！紙のこと 山形屋紙店

「読書感想文」よ、

ありがとう。

「国語って何の勉強だか良く分かんない。」

小学生の頃、そう思っていた。算数や理科、社会。そういうものは問答無用の勉強感があった。知らない事を知る、分からない事が分かる。それは「勉強だ！」と幼心にも分かる物だった。

国語も漢字を覚えるとか、暗記に関してはそう思えた。中学生になって、古文や漢文が出て来ると勉強感が増した。ただ、現代文に関しては相変わらず何の勉強だか良く分からなかった。日本語の普段使っている言葉の何を勉強しようというのか。

そんなものだから、読書感想文の意味など、皆目、分からなかった。本を読んで、何となくどんな話だか説明して、どんな風に思ったかを原稿用紙5枚で提出する。ごくごく当たり前の行為の、これって、何の勉強なのか？

脚本家 森下佳子

残念ながら、鈍い私には学生時代の最後までその意味は分からず、その疑問を先生にぶつけるほどの情熱は持ち合わせず、何となく、ずーっと、棚上げにしたまま大人になった。

しかし、人生はホントに奇妙なもので、この意味の分からなかった「読書感想文」のおかげで、今、私は脚本家として何とか食べていけている現状があるのだった。

脚本のお仕事には「原作付き」と「オリジナル」の2種類のものがある。

で、私の仕事は前者の方が多い。オリジナルがさして得意ではないという現実や、「私が考えるより面白い物語がちま

たに一杯転がってるのに、なんで、わざわざ私のしょぼい頭で話考えなあかんの？ まあ、とにかく、おもしろい方がええやん。」という、ある種言い訳、ある種あきらめ、ある種達観。そんな物がなймаぜになつてそういうことになっている。ただ、誤解しないでいただきたいが、その物語の素晴らしさを、流れるテーマを、より多くの人に伝えたい。文字を読むものが嫌いな人にもその物語を楽しんでもらいたい。その為の伝え方を私は必死で考えよう！ そんな風には思っているのだ。うん。

脱線失礼。で、「読書感想文」である。私はある時、ハタと気づいたのだ。この原作のある脚本を作るとは実は「読書感想文」を書く作業と非常に近いということに。原作をできるだけ忠実に、できるだけ何一つ変えずにと求められる場合ももちろんあるが、そうでないことの方

テリー」になるし、犯人側から描けば「犯罪小説」になる。起こっている出来事にメスを入れる角度が変わると、物語の見え方はがらりと変わるのである。往々にして、誰かの「君はかけがえのない人だ。」という美しい言葉は、誰かにとっては「君はかけがえのない人ではない。」という残酷な言葉に響いているものだ。

私は主人公ではない登場人物や原作にはいない人物を主役に仮定して、描かれている事象を手がかりにその人の埋もれた物語を想像していく。そこから湧き出て来る思いや言葉を探す、掘りおこす。

そして、ぶつとい主人公の物語にその登場人物の物語をぶつけてみる。それぞれ

の思いがぶつかると思いがどつと入って来る、私が予想もしなかった台詞を登場人物たちが口に始める。そこで起こる化学反応は滅法楽しい。私にとってはそれが脚本を書くという作業だ。

これは机上の話だけど、実は現実の人付き合いもそんなものかもしれないなとも思う。私の人生は私が主役だけれど、友達の人生は友達が主役。私の正論とあなたの正論は、正論という意味ではとりあえずは同価値だ。それをわきまえた上で、初めて共感も説教も議論も意味を持つのではないかと思うのだ。作者の視点を相対化し、自分なりの視点や解釈を探す「読書感想文」はその出発点や訓練となりうるものだ。うん、だから、それは中々大事なお勉強だなあと、40を超えて思う今日この頃なのだ。

さて、私が「読書感想文」を物語に再構成する上で、気にかけており、かつ、最大限に楽しんでいる作業がある。それは「視点の交換」ということである。すごくシンプルな例をあげれば、ある殺人事件を、刑事側から描けば「ミス

森下佳子
もりしたよしこ

1971年大阪府生まれ。東京大学文学部卒業後、会社員の傍ら、プロットライターを始める。半年後の2000年「平成夫婦茶碗」で脚本家としてデビュー。04年のTBSドラマ「世界の中心で、愛をさけぶ」ではドラマアカデミー賞で最優秀作品賞を含む9冠を達成。NHK朝の連続テレビ小説「ごちそうさん」では、第32回向田邦子賞を受賞。「白夜行」「JIN—仁—」「とんび」など、作品多数。



新しい教科書の行方

この春、いよいよ新しい教科書が完成します。
昭和二十七（一九五二）年、光村図書が初めて中学校国語教科書を刊行して以来、今回が二十二回目の改訂となります。
今を生きる生徒にとって、教科書はどうあればいいのか、どんな「国語」の力を身につければいいのか。
本特集では、編集委員の先生方のお話やデジタル教科書を活用した授業レポートなどを通して、
これから求められる教科書の在り方について探っていききたいと思います。

対談

これからの
時代を担う
子どもたちに

編集委員の先生方がどのような思いを込めて
新しい教科書を編集されたのか、
その一端をお話いただきました。

高木まさき

横浜国立大学教授

宗我部義則

お茶の水女子大学附属中学校教諭

聞き手 光村図書中学校国語編集部

「主体的な学び」とは何か

——新しい教科書の方向性について考えるにあたり、今、国語の授業で何が課題となっているのかを伺いたいと思います。

高木 学校などの研究テーマとして、よく「主体的な学び」ということが挙げられています。学習指導要領にも頻出するキーワードです。「言語活動」と並んで関心の高いテーマではないでしょうか。また、知識基盤型社会といわれるこれからの時代には「情報活用力」も課題となっています。

宗我部 学力についての議論の中では、「語彙力」「小・中九年間の学びの系統性」も

重要な課題として挙げられますね。

——まず、「主体的な学び」とはどのようなものだと捉えればよいでしょうか。

高木 「主体的」というのは、「自発的」とか「自分勝手」とは異なります。対象を客観的に見つめ、いくつかの選択肢の中から、自分なりの根拠をもち、どれか一つを選び取っていくことなのです。ただ好きだから



撮影・鈴木俊介



たかぎ
高木まさき

1958年静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語専門部会委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。著書に『「他者」を発見する国語の授業』（大修館書店）、「合科的・総合的な学習のための読書関連単元100のプラン集」（共編著 東洋館出版社）など。光村図書小学校・中学校「国語」教科書編集委員を務める。

中学校国語での 言語活動とは

——選択のプロセスを身につけるうえで、言語活動はどのような意味をもつてきますか。

宗我部 言語活動を取り入れることで、ゴールが見えやすくなることはあります。どういう達成があればよいのか、生徒にも教師にも見えますから。例えば、文章を読んで理解するというゴールは、生徒にはイメージしにくい。それが「視点を変えて書き換える」とか、「朗読で読んだことを表現する」というゴールなら、生徒にも見えるはずです。

高木 ただ、小学校と違って、中学校では大きな単元を組んで言語活動をたくさんやらせる時間はありません。限られた時間で、言語活動を通して効果的に試行錯誤と選択をさせることが大事になってきます。言語活動は、そこを踏まえて考えていかなければなりません。

宗我部 本来、国語科は、ずっと言語活動を通して行ってきたものであり、いろいろな取り入れ方ができるはずですね。

中で、自分の学びをメタ認知したり物事を見つめる力が養われたりしていくのですね。

宗我部 ええ。ゴールが見えれば、何が達成されればよいかわけではなく、それを達成するためにどんな手立てがあつて、どれを選んだらよいかわという意識も芽生えてくるのではないかと思います。それを途中段階の目標にするんです。

例えば、ブックトークだと、ある本を紹介するというゴールに向かう途中で、どうすれば相手に興味をもってもらえるか、そのためにはどんな工夫ができるかなどを考える。それが途中段階の目標になり、見通しをもった主体的な学習につながっていくのではないでしょう。

高木 そうした途中での試行錯誤と、その中で選択のプロセスを身につけていくことが、主体的な学びにつながるんですね。

で示されれば、先生方も主体的な選択ができます。

国語科における 情報活用力とは

——次に、情報活用力についてのお話を伺いたいと思います。国語の学習の中で、この力を身につけるためにはどのような工夫が考えられるでしょうか。

宗我部 現場の先生が「情報活用力」と聞いたときのイメージは、ICT（※1）に関することや、調べ学習のことではないでしょうか。

高木 そうですね。確かにICTの活用は情報活用力と密接に関係していて大切なこ

とです。しかし、パソコンの操作自体に魅力を感じてしまい、肝心の学習が深まっていない生徒もいます。国語科としてICTを活用した授業をする際には、先生は、生徒が何を楽しんでいるのかをよく見極めて、国語の力につながるような指導をしていかなければなりません。

宗我部 国語科としての情報活用力をしっかりと考えていきたいですね。

高木 情報活用は、まずはテキストを読む活動の中でも十分にできるんです。最も縁遠いと思われがちな物語や小説も、実は情報として学ぶことができます。例えば、「少年の日の思い出」（二年）は、「僕」という一方向の視点から語られている。だからエーメールが悪いやつのように見える。しかし、これをエーメールの視点から捉え直したら、別の事実が見えてきます。そうし

高木 無理にでも言語活動を行わなければ、と先生方が考えてしまつては本末転倒です。言語活動はあくまで例であり、思考力、判断力、表現力を育てるためのものです。それを見失わないためには、先生自身に選択する力が求められます。

宗我部 そうですね。この指導事項にはこの言語活動をとというパッケージ化された授業を行つてしまうと、先生方もゴールを見失つてしまいます。先生も主体的に考えなくてはならないと思います。

——特に、読むことの領域においては、適切な言語活動を選択することは難しいですね。教科書の「学習の手引き」で、うまく示していくことはできるでしょうか。

高木 分析的に読むだけの授業にならないように、その文章を読むための動機づけ、意識づけになるような呼びかけの形で、言語活動を示していくのは有効ではないでしょうか。

宗我部 手引きで「何のために読むのか」という呼びかけが入れば、生徒の読み方にこれまでと違う必然性が生まれてくるはずです。また、決められたパッケージのような形ではなく、呼びかけというソフトな形



そが よしのり
宗我部義則

1962年埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤講師。国立教育政策研究所「教育課程実施状況調査問題（中学校国語）」作成および分析委員。平成20年告示中学校学習指導要領解説国語編作成協力者。光村図書中学校「国語」教科書編集委員を務める。

※1 ICT (Information and Communication Technology) コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術。

生きた場面でたくさん言葉と出会えるような教科書を。

高木

た学習が、日々の新聞やテレビのニュース番組を見るときにも生きてくるのです。

宗我部 同感です。文学で、語り手がどんな視点で物語っているかを考えることこそ、メディアリテラシーと直結しているように思います。

説明文の要約も情報活用の視点で考えることができます。従来の指導では、いかに簡潔にまとめるかに重点が置かれてきましたが、どのような目的で、どのような相手に向かって要約をするかということは、まさに情報発信力と直結しています。国語科における情報活用力の根幹となる重要な部分ですね。

——誰に対して、どういう目的で要約するかというお話がありました。情報の集め方についても、これらを意識した集め方があるでしょうか。

宗我部 教科書の中に情報の集め方が網羅されている必要はないと思います。ただ、相手や目的によって、こういった情報を集

めてくるかを学ぶことは重要です。

最近の生徒は、調べ方そのものを知らないことが多いように感じます。図書館に行けば何かある、という当たりはつけられても、レファレンスサービスで司書に聞くことは意外とできない。調べ方を網羅的に知るのではなく、いくつかの情報収集法を複合し、生徒自らが状況によって使い分けられる力をつけることが大事ですね。

高木 情報を集める力と、集めた情報を吟味する力、目的と相手を考えながら発信する力。こういう力を三年間で身につけていくことが必要です。情報活用もまた主体的な学びといえますね。

——情報発信は、今後生徒が生きていく社会を考えると、避けて通れないことではないでしょうか。

宗我部 情報発信は、情報モラルの側面がクロージアアップされることが多いですね。ソーシャルメディアを巡る問題があるのも確かですが、先生方自身がLINEをはじめ

ように、単純に語彙集や一覧表を教科書に載せるだけでは意味がないことは、先生方も痛感されていると思います。大切なのは、生きた場面の中でどれだけ皆さんの言葉と出会うかです。言語活動の中で、言葉に出会うこと、出会う場面をどれだけ多く作るかですね。

読書活動はもちろんです。新聞、ニュースなどを見たとき、よく意味がわからなくても、気になる言葉を増やしていくことが重要です。例えば、日頃から気になる言葉をメモする習慣をつけるだけでもいいんです。意味まで調べるとなるとハードルが高くなってしまいますが、言葉を集めるだけなら続けられるはずです。

教科書では、生徒が気になる言葉を増やしたり、似た言葉の違いを考えたり、言葉に対するアンテナを常に日常の中に張り巡らせる姿勢を育む工夫を取り入れたいと思います。

——単純に語彙のカタログを渡せば語彙力がつくということではないですね。

語彙が増え、
認識のしかたが多様になります。

新しい
教科書の
行方

宗我部

宗我部 そのとおりです。私は「言葉の宝箱ノート」(下写真)といって、目に留まった言葉をいつでもメモできるように、メモ帳を持ち歩く習慣をつけるよう指導しています。そして、毎日の国語の時間の最初に交代で一人ずつ発表させる実践を続けています。

高木 私が語彙獲得について図式化した「富士山モデル」(下図)というものがあります。正確に使える言葉は、富士山のとっぺんのごくわずかな白い部分でしかありませんが、裾野の広がりがある皆さんの言葉がそれを支えているのです。

宗我部 ちょうど、赤ちゃんが親の言葉をひたすらため込んで、いつのまにか使えるようになっていくのと同じように、中学生の頃は、社会的な言葉をどんどんため込んでいく時期なのですね。言葉と出会う、つまり語彙が増えるということは、認識のしかたや相手の言葉の受け止め方が多様になることだと思います。

いっぽう、語彙力の問題として取り上げられる一例として、生徒が決まり切った表

めとするSNS(※2)などをよく知らなかったため、過剰に危険視している面があるのかもしれませんが。危険性はきちんと踏まえながらも、有効な側面についても教科書で扱い、上手な付き合い方を教えることは必要でしょうね。

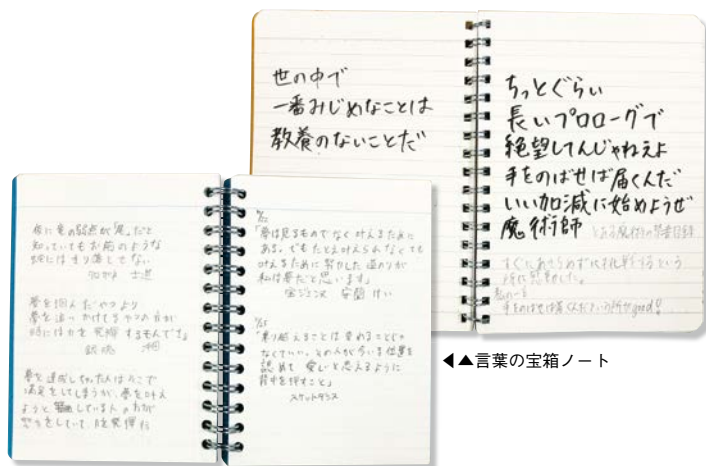
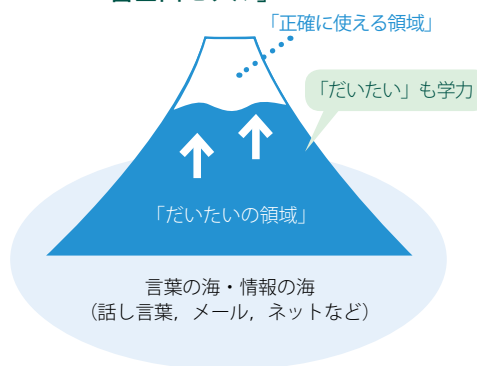
高木 私もどちらかというと、危険性を先に考えてしまいます。しかし、東日本大震災の際には、マスメディア以外の個人が発信した情報がクロージアアップされました。そうした情報が、多くの人の命を救ったという事実もあるのです(※3)。新しいメディアが増えていく中で、危険な面だけでなく、よい面も取り上げることが必要だと思います。

語彙力は どのように育てるか

——現場の先生方からお話を伺うと、語彙力をつけていくことの大切さが必ず話題になります。教科書ではどのように対応しているのでしょうか。

高木 語彙力の重要性は前々から課題として挙がっていましたが、英語の単語集の

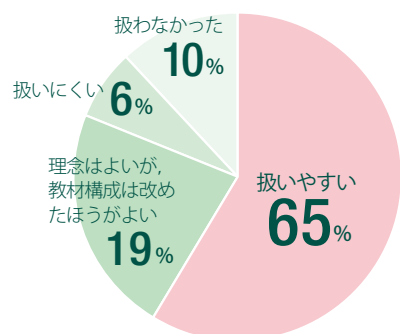
言葉の獲得過程の 「富士山モデル」



◀言葉の宝箱ノート

※2 SNS(Social Networking Service) 特定の目的や関心をもった人どうしが情報交換を行うことができるインターネット上のサービス。
※3 そうした情報が…… 東日本大震災の発生直後に、中学生がテレビのニュースを携帯電話で撮影し、動画サイトで中継した(テレビ局が特別に許可)。この中継によって、テレビやラジオが使えなかった被災地の人々に情報を提供することができた。

■1年「言葉に出会うために」は、扱いやすいでしょうか。



「平成24年度版 中学校国語に関するアンケート」
(光村図書)より (回答者数 668名)

高木 例えば、「ごんぎつね」(小学校四年)など、小学校で扱った教材を中学校の授業に取り入れる先生もいらっしやいますね。中学生になって読むと、過去の学びそのものを相対化しながら、高めたり深めたりできるからです。

——具体的にはどういった指導ができるでしょう。

し、生徒に見通しをもたせて学習させるなら、中学校の先生も小学校での学びを意識する必要があります。生徒が何を知っている、どのような学び方をしてきたのか、知っておくべきでしょう。

高木 もちろん語彙が豊かで、いろいろな言い換えができるほうがいいのですが、文化状況、社会状況から生まれた若者言葉でしか言えない気持ちや感覚もあると思います。先生方は、そういうことも理解してあ

——語彙力というのは、言葉の数を増やすだけではないということですね。

高木 説明文教材「君は『最後の晩餐』を知っているか」(二年)の中で、筆者は「かっこいい」という言葉を印象的に使っています。それがどんな意味で使われているのかを考えさせるのが、この教材を指導するポイントの一つでしょう。生徒が発した「すごい」という言葉も、どういう文脈でどう使用されているか、その生徒自身やクラス仲間と気づかせていくことが国語の指導の大事なことですね。

現しか使わないことが挙げられます。感動したときや驚いたときに、「すごい」としか言わない。ですが、その子は、「すごい」という言葉に万感の思いを込めて使っていることもあります。聞き手が、その「すごい」から、いろいろな意味を想像できる語彙をもっているからこそが語彙力ではないでしょうか。



宗我部 私の学校では、伝統的に幼・小連

宗我部 私、小学校二年で学習する「お手紙」を中学一年生に改めて読ませたことがあります。すると、小学校のときには気がつかなかった新しい発見がたくさんあった。生徒自身も、自分の読む力がいかに伸びたかを実感したはずで、そんな授業を通して、生徒が成長を感じ、意欲を高められるようなスタートが切れるといいですね。

高木 小・中連携と聞くと、スムーズにつなげてギャップを減らすことばかり考えがちですが、中学生としてのハードルを上げて、意欲を高める、学習に自覚をもたせる、誇りをもたせることも大事ですね。

宗我部 私、本心に語彙力が低下しているのか疑問です。大人が使っている言葉が中学生が使おうとしても、実生活の裏づけや経験が伴わず、実感のこもった言葉になりません。言葉として知っていても、使っ

——語彙力というのは、言葉の数を増やすだけではないということですね。

さらに、全国学力・学習状況調査の結果を見ても、「語彙力が落ちた」という結果はありません。和語が弱い傾向は見られても、調査でわかるレベルでは、今の生徒の語彙力は昔に比べて決して劣ってはいないのです。もし語彙が減っていると感じるなら、どういう言葉なのか、どういう状況で低下を感じるのかを冷静に考える必要があるのではないのでしょうか。



気になれない。生徒に足りていないのは語彙ではなく、生活経験なんです。

語彙を増やすことは、自分の生活経験に改めて光を当て直し、耕し直すような側面があると思います。そうすることで生徒なりに実感を持ち、使えるようになっていくのではないのでしょうか。

高木 自分の身の丈に合った、実感のこもった言葉を使い、表現できるこそが、本当の言葉の力ですね。量も大事ですけど、ただ単に知識として使えるだけでは本当の力になっていないと思います。教科書では、そういうことも踏まえ、生活経験と結び付けた語彙学習ができるように心がけたいと思います。

小・中の連携で大切なこと

——学習指導要領では、小・中九年間の学びが重視されています。小・中の連携において、教科書ではどのような工夫ができるのでしょうか。

高木 今まで中学校においては、生徒が小学校で何を学んだかは、あまり問われてきませんでした。しかし、学習の継続を重視

携、小・中連携を重視してきました。その視点から考えると、小学校から中学校への授業のギャップをなくすことと、生徒が成長を実感できるよう、あえて設けるハードルの両方が必要だと思います。

例えば、中学一年冒頭の「言葉に出会うために」には「野原はうたう」が掲載されています。これは小学校四年でも学習している教材です。単純に、小学校で習っているから生徒が入りやすいというのではなく、小学校のときにはどんな読み方をしたのかという、これまでの学習を振り返る意味で必要な教材だと感じています。その後、ノートを取り方、図書館の使い方、調べ学習のしかたなど、中学校での学習の進め方が具体的に教材として載っているので、ステップアップを実感できるようになっています。

高木 アンケート結果(上図)を見てもかなり評価が高い教材です。新版でも、小学校からの継続性と、あえて設けるハードルの両方を考え、よい意味でのプライドをもたせる工夫をしたいと思います。

これからの時代を担う子どもたちに読ませたい教材とは

——これからの社会の中で生きていく生徒に、どういった教材と出会わせていけばいいでしょうか。

高木 私は、大きく分けて二つあると考えています。

一つは、言葉を見つめる教材です。これからの時代は、何が正解か見えず、すぐに答えが出せるような時代ではなくなってくるのではないのでしょうか。また、一つの答えを出しても、すぐにそれを変更しなければならなくなるような時代になるかもしれません。だからこそ、さまざまなことにアンテナを張り、学び続け、考え続けることが必要になってきます。

常に情報を更新し続けていかなければならないときに必要なのは、やはり言葉です。常に言葉を見つめて吟味していくことで、自分を見失わず、人生を切り開いていくことができます。

宗我部 「言葉に対する感受性」や「言葉の力」がキーワードとなりますね。

生徒の生き方の指針となるような教材と出会わせたい。

宗我部

ない時代を迎えようとしています。

宗我部 私も現場に立つ教師の一人として、生徒が自分のモデルになるような生き方を必死に探しているのを肌で感じます。先が見えない時代だけに、自分の生き方の指針になるような人を一生懸命探しているように思いますね。だから、国語の教材の中で、さまざまな生き方に触れることができる作品に、できるだけたくさん出会わせたいです。

——現場の先生方を対象にしたアンケート結果（P13表）でも、生徒に読ませたい教材として伝記やルポルタージュが上位に挙がっています。

宗我部 私は、手が届かないような偉人の伝記ではなく、同じ伝記でも、置かれた状況に真摯に向き合って生きる身近な人々の話に触れさせたいと思います。他には、戦争の中に生きる子どもたちなど、広い世の中で自分を対象化できるような作品もあるとよいですね。自分の日常の中にはない世

価値を創造できる思考力が育つ教科書

宗我部 これからは、社会の流れに乗っていく人ではなく、流れを変えられる人が新しい時代を創っていくと思います。既存の価値や考え方にとらわれず、現状を変えていけるような思考力を育てる教材を豊富に掲載することが、教科書の使命だと考えています。

高木 教科書は生徒にとつての羅針盤であると同時に、さまざまな生き方、考え方を示して、それを選択させたり融合させたりすることができるようなものでなければなりません。できあがった価値に追従するのではなく、価値を創造していくことのできるような思考力を育てる、それが教科書のいちばん大切な役割だと考えています。

——ありがとうございます。

平成二十八年度から使用される新版教科書は、全国の先生方のご意見を踏まえ、さらにご指導しやすい教科書を目ざして編集を進めてまいりました。
新しい教科書に、ぜひご期待ください。

■説明的文章の分野・話題につきまして、特に生徒が関心をもっていると思われるもの、また、これから生徒に必要と思われるものをお選びください。（複数回答可）

1 地球環境	282	13 福祉	110
2 スポーツ	278	14 人権	101
3 情報・メディア	267	15 外国文化	96
4 日本文化	206	16 キャリア教育	89
5 宇宙	178	17 歴史	84
6 コミュニケーション	169	18 倫理・道徳	83
7 科学技術	140	19 芸術	56
8 国際関係	132	20 医学	54
9 生物	127	21 哲学	52
10 平和	126	22 政治経済	20
11 心理学	121	23 地理	12
12 言語	112	24 その他	11

その他：音楽・ファッション・アニメ・芸道・サブカルチャー・漫画・論理学・現代哲学
日常に密着したもの。
生き方のモデルとなるような文章。

「平成24年度版 中学校国語に関するアンケート」（光村図書）より

界を語ってくれる人の言葉が教科書に入ってくると、さまざまなものの見方を提示でき、正解のない時代を生き抜く力へと結び付いていくのではないのでしょうか。

——東日本大震災は、社会の方向を大きく変える出来事だったと思います。

高木 やはり、国語科としても避けて通れないことでしょう。被災地の方々の心にも配慮しつつ、震災時に私たちが何を考え、何を学んだのかを忘れないためにも、生徒に伝えていきたいと思っています。

宗我部 震災の大変さ、被害の甚大さを繰り返し伝えるというより、困難を乗り越え、工夫して現状を変えていこうと努力する人に焦点を当てた教材などに出会わせたいものです。

高木 困難が起こっても、違う発想で乗り越えていく人間の力強さを見せたいと思います。

教科書の役割は、新しい価値を創造できる思考力をつけること。

■物語や小説、詩・随筆以外で、中学生にどのような文学的な作品を読ませたいと思われますか。（複数回答可）

1 ルポルタージュ	197
2 伝記	192
3 落語	177
4 ドラマや映画などの脚本	166
5 対談	94
6 戯曲	77
7 狂言	61

デジタル教科書の可能性

光村図書では、現在、電子黒板等に拡大提示する「指導者用デジタル教科書」を制作し、全国の先生方にご活用いただいています。さらに、平成二十八年度の教科書改訂に合わせ、生徒一人一台のタブレット端末で使える「学習者用デジタル教科書」を開発中です。

学習者用デジタル教科書は、文部科学省「学びのイノベーション事業」と総務省「フューチャースクール推進事業」（平成二十二～二十五年）において実証研究が行われました。その実証校となった三重県松阪市立三雲中学校（川口朋史校長）の豊田多希子先生から、デジタル教科書導入がもたらした学習や授業の変容についてお話を伺いました。

また、後半では、「学びのイノベーション事業」委員など歴任された中橋雄先生に、デジタル教科書の現在と未来について語っていただきました。

デジタル教科書が

やって来た

— 松阪市立三雲中学校リポート

■ デジタル教科書との出会い

三雲中学校が実証校に選ばれたのは四年前。各教室に電子黒板が備え付けられ、生徒全員にコンピュータ（タブレット端末）が配られました。電子黒板では、主に指導者用のデジタル教科書を使い、タブレット端末では実証研究中の学習者用のデジタル教科書を使用しています（詳細はP16参照）。

豊田先生は、それまで機械類はとても苦

■ 変わる学習スタイル

学習者用デジタル教科書が導入されてから、生徒たちの学習方法にも変化が出てきます。班学習をするときにも、操作のしかたの教え合いなどを通して協働学習がスムーズになってきました。

古文の音読練習の際に、二人組になり、片方は「振り仮名を消す機能」を使って現代仮名遣いの振り仮名を全部消して読み、他方の生徒はそれをチェックするなど、自然な形で協働学習が始まります。

協働学習が増えることで、相互の刺激を受けながら生徒の「思考力」が高まってきました。また、従来、書くことや話すことが苦手だった生徒が積極的に表現するようになってきました。自分の表現に周囲からの反応や評価があることが大きな要因でしょう。

古文の暗唱では、以前の授業だったら、「覚えさせられる」という感覚を生徒から感じました。しかし、覚えたところから「マーカー機能」を使って白く塗って消していく授業をしたところ、「先生、真っ白になった!」と、楽しみながら意欲的に取り組みめるようになったそうです。「消したり、元に戻したりできるのはデジタルならではのメリット。それが今の生徒たちの感

▼学習者用デジタル教科書を電子黒板に提示して授業を進める豊田先生。



手で、オーディオ機器の操作もときどき生徒に助けてもらうこともあったそうです。

「今、私がデジタル教科書を使って授業をしていると話すと、過去の生徒はびっくりします」と、笑い話も伺いました。

■ タブレット端末は「あつて当たり前」のツールに

ICT支援員の方の協力もあつて、半年

覚に合っているかもしれない」と豊田先生はおっしゃいます。

■ 導入を検討されている先生方へ

「スマートフォンは便利なツールですね。でも、使っていない人には、なくてもいいもの。使っている人にとっては、もうなくてはならないものになっている。デジタル教科書もそれと似ているのでは」

デジタル教科書を使うことによって、授業の幅が変わってくる——四年間の経験を踏まえ、豊田先生はそんな感想をもつようになりました。デジタル教科書に触れたことで、「国語とは何か」「何をどのように学ばせるか」など、初心に戻って授業のことを考えるようになったそうです。「学習シーンに合わせて、紙の教科書とタブレット端末、電子黒板それぞれの使い方を教師自身がしっかりと把握しておくことが大切です」と、授業デザインの重要性を改めて感じています。

「デジタル教科書を使うこと自体が目的ではありません。生徒の意欲や力を引き出すために、先生方の指導の引き出しを増やすにはどうすればいいか、という発想をもっていれば、強い味方になるはずです」。

▼学習者用デジタル教科書を使って協働学習に取り組む生徒たち。



ています。さらに、合唱祭のオープニングの演出や生徒会役員選挙でのデジタル投票、職場体験のプレゼンなど、学校行事にも積極的に活用するようになったそうです。

「新しい知」の創造

—デジタル教科書がひらく未来の教室—

中橋 雄

武蔵大学教授

デジタル教科書で育む新しい学力

将来の教育現場では、デジタル教科書を通し、生徒たちが新しい学力を協働で身につけることが期待されています。新しい学力とは、知識を覚えるにとどまらず、それを「活用、追究、創造する力」を指します。

これまでの紙の教科書は、体系的な知識や技能を個が習得することを重視してきました。いっぽう、デジタル教科書は、それに加えて他者との相互作用を重視したものになり、これからの時代に対応した学力向上を実現できると考えられます。

指導者用と学習者用デジタル教科書の違い

混同されている先生もいらっしゃるかも

りすることで、互いの学習活動が活性化します。グループ学習では特に効果的です。考えていくプロセスを簡単に記録に残せるので、その過程を見せ合いながら、生徒たちが自ら議論を深められるようになると思います。

こうした試行錯誤の過程は、生徒の主体的な学びにつながっていきます。デジタル教科書は、生徒が課題を解決していくために欠かせないツールにもなりうるのではないのでしょうか。

これからの時代は、答えが一つでない課題に向き合い、解決する力が大切になってきます。デジタル教科書は、対話を重ね、互いの価値観を認め合う中で、自分と他者は違うことを認識し、多様な考え方を認めるためのツールにもなりうると思います。

教師の指導法は変わる？負担はかからない？

多くの先生方が心配されていることかと思いますが、デジタル教科書の導入によって、授業が急に百八十度変わることはまずありません。むしろ、授業準備などの負担が減って、生徒と向き合う時間を増やせるはずです。

しませんが、指導者用デジタル教科書と、学習者用デジタル教科書は別物です。

指導者用は、主に教師が電子黒板に表示しながら使用するものです。光村図書では平成十八年から発行していますので、すでに導入されている学校も多いと思います。わかりやすくいえば、「紙の教科書の紙面イメージや、補助教材としての動画などのコンテンツが入った提示用教材」といえます。教室全体の学習を活性化させることを主な目的としており、一斉授業に適したものです。

それに対して、学習者用は生徒が使うもので、タブレット端末などに入っているものを指します。仕様や内容に関しては研究・開発中で、中学校では、平成二十八年度の教科書改訂に合わせて発行される予定になっています。紙の教科書の紙面イメージが基本となるのは指導者用と共通してい

あるいは、従来の教科書とノートで培ってきた力が落ちてしまうのでは、と懸念する先生もいらっしゃるかもしれません。ただ、例えば表現力では、紙と鉛筆で思考を表すことと、デジタル機器を使って思考を表すことは頭の使い方が違う、全く異なる能力で、両方とも社会で生活する上では大切です。場面によって、どちらで授業するかうまく使い分ければいいのです。

さらに、先にメリットとして述べたように、デジタル教科書を使えば、「活用、追究、創造する」新しい学力に対応した授業が比較的簡単にできるようになると思います。

デジタル教科書がひらく未来の教室

学習者用デジタル教科書普及の大きなポイント、生徒自らの学びのツールになり

ますが、個人の学習や協働学習が活発になるよう、ワークなど、生徒にとって使いやすいコンテンツを多く取り込んだ内容が重視されていくのではないのでしょうか。

二つのデジタル教科書を効果的に使い分けることで、個別学習、協働学習、一斉学習と、授業シーンに合った学びが深まっていくでしょう。

学習者用デジタル教科書のメリット

学習者用デジタル教科書は、画像や動画の取り込み、学習履歴の確認、あるいは電子黒板と連動させた授業など、紙の教科書ではできない授業を可能にします。

例えば、書き込みやマーカーを引いたところを生徒どうしがタブレット端末を使って見せ合ったり、通信機能で共有し合った

うるかどうか、ということです。教科書の作品についての意見を書き込む。それをクラスや学校内で交換し合う。外部の人々の知識や意見からも学ぶ。そして、自分の意見や考え、作品を世界に発信していく。

そんなとき、「学んだことが人や社会の役に立った」と生徒が実感する瞬間があるかもしれません。単なる教科書の知識で終わるのではなく、学校という枠を超えた新しい知の創造へと広がっていく。未来の教室は、ますます豊かで充実した学びの場になっていくと期待をしています。

※デジタル教科書は、正確には「教科書」ではなく教材です。紙の教科書は文部科学省による検定を受けていますが、現在発行されているデジタル教科書は教材としての扱いなので、検定はありません。

なかはし ゆう
中橋 雄

専門は、メディア・リテラシー論、教育工学。初等・中等教育の現場と連携し、実践研究、教材開発研究などを行っている。著書に『メディアリテラシー論—ソーシャルメディア時代のメディア教育』（北樹出版）、『これからの情報とメディアの教育』（図書文化社）などがある。

「学力」向上のための教科書の役割



三浦登志一
山形大学大学院教授
元国立教育政策研究所学力調査官
山形県生まれ。公立中学校教諭を経て、山形県教育庁で指導主事、国立教育政策研究所教育課程研究センターで学力調査官を務める。文部科学省「評価規準」評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者。

国語科における「学力」には二つの側面があります。一つは、考えたり感じたり想像したりする力などの理解する力と、それらを音声や文字にして表す力からなる側面です。もう一つは、国語についてのいろいろな知識など、私たちが物事を考えたり想像したりするうえでの土台としての側面です。季節の味わいや言葉の美しさを感じるなど、物事の適否・善悪・美醜を判断する際の価値観や感性もこれに含まれます。

これらを総合して、自分でしっかりと考えることのできる生徒を育てることが国語科の役割であり、教科書もそれを踏まえて編集されています。「学力」を向上させるためには、何か特別なことをする必要はなく、生徒の実態に応じて、教科書を有効に活用しながら指導することが大切です。本稿では、学力を考えるうえで大切なキーワードを中心に、よくいただく質問に答える形でまとめてみました。

国語科における「思考力」「判断力」とは、具体的にはどのような力なのでしょう？

A 国語科で使われる言葉は、その意味が曖昧なまま使われ、結果的に評価や指導に生かされていない場合があります。しっかりと把握しておくことが大切です。

①思考力とは

誰かからの話を聞いて引き付けられる、あるいは、文章を読んで感動することがあります。「思考力」は、話を聞いたり本や文章などを読んだりしたときに、感じ、想像し、考えるのに必要な能力です。文学では作品の世界をイメージしたり、説明文では筆者の主張について考えてみたりするような際に発揮されます。話や文章の要旨を的確に把握し理解することから、分析的に

読んだり、批判的に読んだりすることまでを含む、幅の広さがあります。

②判断力とは

「判断力」は、思考していることの適否・美醜・善悪などについて判断を下す能力です。文学作品を読んで自分が感じたことについて、どのような言葉を用いるのが適切なのかを考えて選択する場面で、判断する能力が発揮されます。人物の心情について考えるような場面では、感じるということがいくつかあったり、考え方が複数出たりします。その中から、私たちはいずれかを選ぶことになります。

根拠となるものを分析的に検討して判断し、考えを組み立てていく。話をする場面でも、自分の話が相手にどのように受け止められているのかを感じ取りながら、時には具体的な例を加えるなどの手立てを講じる。これも判断が伴った行爲です。

2

「言語活動の充実」ということがいわれますが、「言語活動」とは、授業の最後にパンフレットを作ったり、話し合いをしたりするような活動のことなのでしょうか？

A 国語科の授業には、必ず言語活動が含まれています。先生の話や聞き取り、授業の振り返りを書いたりすること、広い意味での言語活動です。しかし、学習指導要領に示された「言語活動」は、もっと限定した意味で使われています。単元の中で、国語の能力を身につけるために生徒が言葉を用いて取り組む「ひとまとまり」の活動が「言語活動」なのです。「言語活動」には最後に作品を作るなど、表現力が重視されがちです。文部科学省が以前に作成した「読解力向上プログラム」では「読解力」を向上させるために、①テキストを理解・評価しながら「読む力」を高める取組の充実、②テキストに基づいて自分の考えを「書く力」を高める取組の充実、③様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実を重点目標としています。

この中の目標①は、テキストの解釈や理

3

「全国学力・学習状況調査」はなぜ始まったのですか？

A 全国学力・学習状況調査は、国の教育水準が一定以上に確保されているかどうかを把握すること、教育委員会や学校に指導の改善を図る機会を提供することなどを目的として、平成十九年度から実施されています。

全国学力・学習状況調査が始まったのは、学習指導要領の改訂に向けた動きがある一方で、PISA2003の結果から、日本の子どもたちの読解力が低下していることが指摘された時期でした。基礎・基本となる知識や技能を身につけるだけでなく、そ

4

「全国学力・学習状況調査」はどのような内容で構成されているのでしょうか？

れらを活用する能力の育成が強く求められる中で、「活用」も視野に入れて学力調査が実施されることになりました。

A 調査問題は、主として「知識」に関する「国語A」と、主として「活用」に関する「国語B」の二種類です。国語Aでは、描写や要約、説明などの基礎的な言語活動に関すること、表現したり理解したりするための基礎的な知識技能、言語文化に親しむ内容に関することなどが出題されています。国語Bでは、日常生活や社会生活で必要とされる読書や鑑賞など、言語の活動の活用に関すること、筆者の主張の内容や表現方法などを評価することなどが出題されています。

この調査は、学校での授業場面を意識しており、調査問題は、日々の授業においても使うことができるように作成されています。国立教育政策研究所からは、「授業アイディア例」も毎年出されています。こうしたものを利用しながら授業を作っていくことが大切です。

「全国学力・学習状況調査」から、どのような課題が見えてきたのですか？

A 国立教育政策研究所では、平成二十四年に『全国学力・学習状況調査』の四年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ』を作成し、各領域等でのような点に課題があるのかを整理しています。

「話すこと・聞くこと」では、「資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明すること」が課題とされています。

「書くこと」では、「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと」に課題があるとなっています。文章を読んで感想や意見を書く際に、「すごいと思った」や「よかった」にとどまるような書き方になっているなど、自分の感想を具体的に書くことができていないことが指摘されています。

「読むこと」では、「目的をもち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」が課題として挙げられています。新聞のトップ記事とコラムとを比較して書き方の特徴を考える問題では、正答率が五〇％にとどまっています。夏目漱石の「吾輩は猫である

るよう、説明のしかたを工夫させます。順序立てて、比較するなどの工夫を取り入れることで、伝えようとしていることがより明確なわかりやすいものになります。

また、読むことの学習と関連づけて根拠を明確にすることができるようになる学習も考えられます。「モアイは語る」（二年）の手引きには、「事実を示して意見を書く」というコーナーがあります。根拠となる事実を示しながらまとめた文章を書くような機会も、意図的に設定することが望ましいでしょう。

「伝えたい事柄や根拠が明確かどうか」について、自己評価する眼を養っていくことも大事な指導です。「文章の形態を選んで書く」（三年）では、推敲に焦点を当てて、修学旅行記で何を伝えようとしているのか、伝えたいことと内容とが合っているのかを検討させるようにしたいですね。このような指導の積み重ねによって、「必要な情報の取り出し」や「根拠を明確にして」考えを書く力が着実に身につくこととなります。

「目的をもち、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」（読むこと）

文章を漫然と読んでいるだけでは、国語力は向上しません。言語活動を設定するこ

見えてきた課題に対応するために、教科書をどう使っていけばいいでしょうか？

A 教材や「学習の手引き」を活用しながら、課題とされている力を重点的に指導すること、教科書全体を見渡しなが、年間の指導のバランスを考えていくことの二つが考えられます。

①教材や「学習の手引き」を活用した授業の工夫

全国学力・学習状況調査で見られた課題にどのように対応しているか、教材を具体的に挙げ、その学習の手引き等をもとに考えてみましょう。

「資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明すること」（話すこと・聞くこと）

「資料や機器を効果的に活用すること」は、二年生での指導事項です。教材「印象

とによって、本や文章を読む目的が生徒に共有されるようになるのです。

二年生の教材に、「字のない葉書」があります。【学習の窓】では、二つの思い出を「書き方に着目して」比べています。示されている描写のしかたの違いが、具体的にはどのような叙述と対応するのかを考えさせることによって、表現のしかたや文章の特徴を、具体的な叙述に即して理解することが出来ます。

読むことの学習では、内容をどのように理解するかに重点が置かれがちです。文章がどのように書かれているのかの形式に着目して、その適否や美醜について考え、判断する機会を意図的に設けたいですね。例えば、一年生の「大人になれなかった弟たち……」で、繰り返しの表現に注目してその効果を考えさせ、二年生の「走れメロス」では登場人物の描かれ方などに注目し、「君は『最後の晚餐』を知っているか」では、表現のしかたや工夫に着目しながら評論を読むようにするなど、学習の手引きに示されていることを結び付ける指導の工夫も考えられます。本や文章に具体的に表れている特徴に目を向けさせることが大切です。

に残る説明をしよう」では、実際に発表用の資料を作成し、その資料を用いながらプレゼンテーションを行います。自分の体験を通して、資料の役割や効果について理解させることが大切です。

読むことの教材である「シカの『落ち穂拾い』（一年）」には、図や表が多用されています。この教材では、図や表などの資料を用いることの効果について学習したり、図表を添えた日記などの文章を書いたりします。そのことで、図や表を用いることの効果について理解を深めていきます。図や表についての理解が、二年生の話すこと・聞くことの学習につながるようになります。

「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと」（書くこと）

各学年での指導が積み重なるように配慮することが大切です。

「調べたことを報告しよう」（一年）では、集めた情報を観点に沿って整理する学習を行います。集めた情報の中で、必要なものと必要でないものを判断できるようにすることがポイントになります。

「説明のしかたを工夫しよう」（二年）では、取り上げる事実や事柄が効果的に伝わ

②領域や内容のバランスを取った授業を

読んで考えたり、考えて書いたりする力は、相互に関連し合いながら向上します。したがって、例えば「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと」に課題が見られたからといって、すべての単元・教材で、根拠を明確にして自分の考えを書くことだけを指導するのは望ましくありません。「読むこと」での力の向上が、根拠を整理したり、伝えたい事柄を明らかにしたりする「書くこと」の力の向上にもつながります。一年間の学習で、三領域一事項の指導事項の全体が学習されるように配慮することが大切なのです。教科書には【学習の見通しをもとに】（各学年のp10）として、教材と身につける力がマトリックスで示されています。このマトリックスを利用して、年間の指導のバランスを取っていきたいですね。

教科書は、知識・技能の習得に重点を置いて学習した後で、そこで学習したことを活用して言語活動に取り組めるように構成されています。こうした特徴を生かして、生徒の言語の能力を螺旋的に向上させるようにしたいものです。

米倉斉加年さんを悼む

昨年八月に、米倉斉加年さんが逝去されました。

米倉さんの作品「大人になれなかつた弟たちに……」が、中学校『国語』教科書に登場したのは昭和六十二年。決して風化させてはいけない戦争の悲しさや、母子の情愛を生徒や先生方に伝える作品として、今もなお多くの反響をいただいております。

今回の特集では、以前小社ウェブサイトのインタビューで語っていただいた米倉さんの声を、また、東日本大震災のとき、被災地の子どもたちに向けて書いていただいたメッセージを掲載しました。

ご子息で俳優・演出家の米倉日呂登さん、絵本『おとなになれなかつた弟たちに……』（偕成社）の編集を担当された安彦道代さんのお二方にも、米倉さんのお人柄が偲ばれる文章を寄せていただきました。



よねくらましかね
米倉斉加年

一九三四年、福岡県生まれ。俳優・演出家・絵本作家。五七年、劇団民藝水品演劇研究所に入り、舞台映画・テレビなど多方面で活躍。二〇〇〇年に劇団民藝を退団。〇七年、劇団「海流座」を旗揚げし、全国各地で公演を行っていた。また、絵本作家としても活躍。一九七六年の『魔法おしえます』（偕成社・七五年）と、七七年の『多毛猫』（偕成社・七六年）でボロニーヤ交際児童図書展グラフィック大賞を連続受賞。
二〇一四年八月二十六日、福岡市内の病院で逝去。八十歳。

「手に取る子どもがいれば伝わっていく」

二〇一〇年十二月、小社ウェブサイトのインタビューで、米倉さんが作品を書かれるに至った経緯や、先生方、生徒たちに対する思いをお話しくださいました。

——「大人になれなかつた弟たちに……」を形にしようとしたのは、どんな動機や衝動があつたのでしょうか。

米倉 僕は、小学校のときから文章を書くのが苦手でした。当時は「綴り方」という教科があつて作文を書くんだけど、いつも二・三行ほどしか書けなかつた。いちばん長いものを書いた記憶があるのは、新制中学の校内弁論大会のときですね。タイトルは「弟の死」でした。それが、今思えば「大人になれなかつた弟たちに……」の原型かもしれない。

弁論大会のときは校内で一位になったのですが、僕にとっては複雑な思い出なんです。そのときの原稿は、実は、先生にほとんど書き直されたものだったからです。僕は、弟が死んだことを書きたかつた。その「種」のところは確かに残っていたけれど、構成やエピソードは先生の手によるものだったということを覚えています。細部は忘れてしまいましたが、「寝転がって、『ピロユキ』と、弟の名前を青空に書いた」というエピソードがありました。実際、僕はそんなことをしたことはなかつたんだけれどね（笑）。

——そのような体験があつたのですね。

米倉 僕の中にある戦争の記憶とは弟のことなんです。その「種」を、先生の手で再構成していただいて弁論大会に出た。あるとき、よく行く宿屋に滞在して、絵

を描いていたんです。売れる絵を描かないと食べていけないから描いていた。だけど、そのときふいに、「やつぱりいかん」という思いが湧いてきたんです。「昔の、小学校の頃の絵を描かない」と。「自分の『戦争』を記しておこう」という気持ちになつたんです。誰かに何かを教えようという気持ちはありませんでした。「僕の弟の名前は、ピロユキといいます。」という、あの書きだしが自然に出てきたんです。そのとき、僕は「四年生」の自分になっていました。どこかに転校していったときに、新しい友達に「僕には弟がおつて……」と話すような感じで。

——そのときは、誰かに何かを伝えるという目的はなかつたんですね。

米倉 「誰かに伝えよう」というのはありませんでした。僕が書きたいから書いたん



25

読み続けたい、読み続けてもらいたい

俳優・演出家 米倉日呂登



俳優・演出家。一九五八年、福岡県生まれ。八三年「劇団民衆」入団。二〇〇一年より海流座「米倉斉加年一座」に参加。二年から民衆付作家・大橋喜一（故）と「東京大喧嘩」を共同作成。近年は地方において劇団創設や海流座との会局公演の指導、プロデュース。

この『おとなになれなかった弟たちに……』の表紙、ヒロユキの絵は、最後に描き加えられました。この絵は、モデルとなった私の長女が生まれてから描き加えられたものです。この子は私の父、米倉斉加年にとって初孫でしたから、父にとっては久々の赤ん坊であつたのでしょう。この子を見て父はすぐにスケッチを始めたそうです。そして、この子の母親、つまり私の妻に、「ヒロユキも同じように髪の毛が立っていたんだよ」と語ったそうです。

父が亡くなる直前に、私は父にこの本の朗読を私にもやらせてほしいと頼みました。父は「いいよ」と一言で許可をしてくれました。この『おとなになれなかった弟たちに……』の朗読は教科書に掲載されていることもあつて多くの方がやられているようです。ですが、父の朗読は特別でした。そもそも朗読の一番は作家による朗読だと、父と私の師匠である宇野重吉より教わっていましたし、父は朗読の名人と言わ

れていた人です。朗読の基本は作品の理解力です。読む力です。宇野重吉より継承されたそれが父の力でした。私はそんな父の朗読を最も近くで最も多く聞くことができました。だからといって父のように私も朗読をしようと思つて、朗読をさせてほしいと言つたわけではなかったのですが……。父が死んで、私に朗読をする機会が廻ってきました。父の朗読を思い出し、祖母を思い出し、制作当時の家族を思い出して、朗読をしました。淡々と、そして集中して読みました。しかし、再び朗読する機会があつたときには、想い出が集中を妨げ、涙を誘いました。父は祖父の死や祖母の死に際しては感情を抑えられず、絶句し嗚咽していました。この『おとなになれなかった弟たちに……』の朗読では絶句はおろか、感情的な表現になつたことはありませんでした。しかし私は感情に流されそうになりました。

この本が出版されたとき、あまりに私的

で赤裸々ではと思いましたが、そうではなかったようです。この絵本の絵は鉛筆デッサンです。父の記憶の忠実なデッサンなのでしょう。事実を淡々と描いたこの絵本には感情が入る余地はないのです。この本には父の母（私の祖母）に対する深い愛があります。それは母親の深くそして強い愛に対して、子からの感謝の気持ちで愛として表されたのかもしれません。そしてこの絵本は、もとは米倉斉加年が、母に捧げた愛の証なのですが、絵本として作者の手を離れ独立し、今では多くの方の心に残る作品となりました。

私は米倉斉加年の息子としてではなく、戦争を知らない、ひとりの人間として、この絵本を読み続けたいと思います。そしてこの絵本の朗読者として、この本をもっと多くの人に知っていただけるように、淡々と、そして集中し、忠実に読み続けたいと思っています。

米倉さんのキーワード

絵本『おとなになれなかった弟たちに……』編集者 安彦道代



桜美林大学非常勤講師。一九四五年、神奈川県生まれ。六十七年信成社入社。絵本編集を担当。『多毛留』『おとなになれなかった弟たちに……』など米倉斉加年著の作品編集を手がける。その他『さつちゃんの手まほうのく』など、数多くのロングセラーを送り出している。

米倉家の居間は、いつも日溜まりのように温かかった。米倉さんは定番の椅子に座り、夫人のテルミさんのほか、芝居の仲間やお友達、娘の加乃さんが一緒のことも多かった。ある時はお孫さんたちが出入り入つたり。犬のマフラーが寝そべり、時には猫たちもいた。

仕事の打ち合わせが終わつてお茶をいただくのが楽しみだった。この場を仕切るのはテルミさんで、話は縦横無尽にあちこちに飛び、私は笑い転げた。米倉さんはテルミさんの話を面白がつて聞いていることが多かったが、ある言葉で突然饒舌になる。キーワードは、「差別」と「戦争」だった。スイッチが入ると、ちよつと掠れた温もりのある声で訥々と、話すほどに力が入り頬が染まる。

この二つは私が編集者として関わつた絵本にも繋がっている。一つは『多毛留』であり、もう一つは『おとなになれなかった弟たちに……』

弟たちに……』（共に偕成社刊）である。

『多毛留』は「むかしむかし倭ノ奴ノくにの奴津に阿羅志という漁師のおつたげな」で始まる「日本と朝鮮の血の歴史」（米倉さんの言葉）を描いたものだ。出版は一九七六年十一月。この頃、米倉さんは金芝河の『銅の李舜臣』や『鎮悪鬼』、『赤ひげ』など立て続けに舞台の仕事がされている。地方公演の旅先の宿や、自宅で朝の少しの時間を見つけて描いた。

『多毛留』の原画をいただいたのも地方公演から帰つた後だった。大きな筒からくると巻いた紙を取り出すと、そこには玄界灘を小舟で連れ帰つた美しい乙女と阿羅志が抱き合う哀しくも華麗な世界が広がっていて、私は思わず息をのんだ。絵の向こうに米倉さんの嬉しそうな、同時にどうだ、というような自信に溢れた顔があつた。

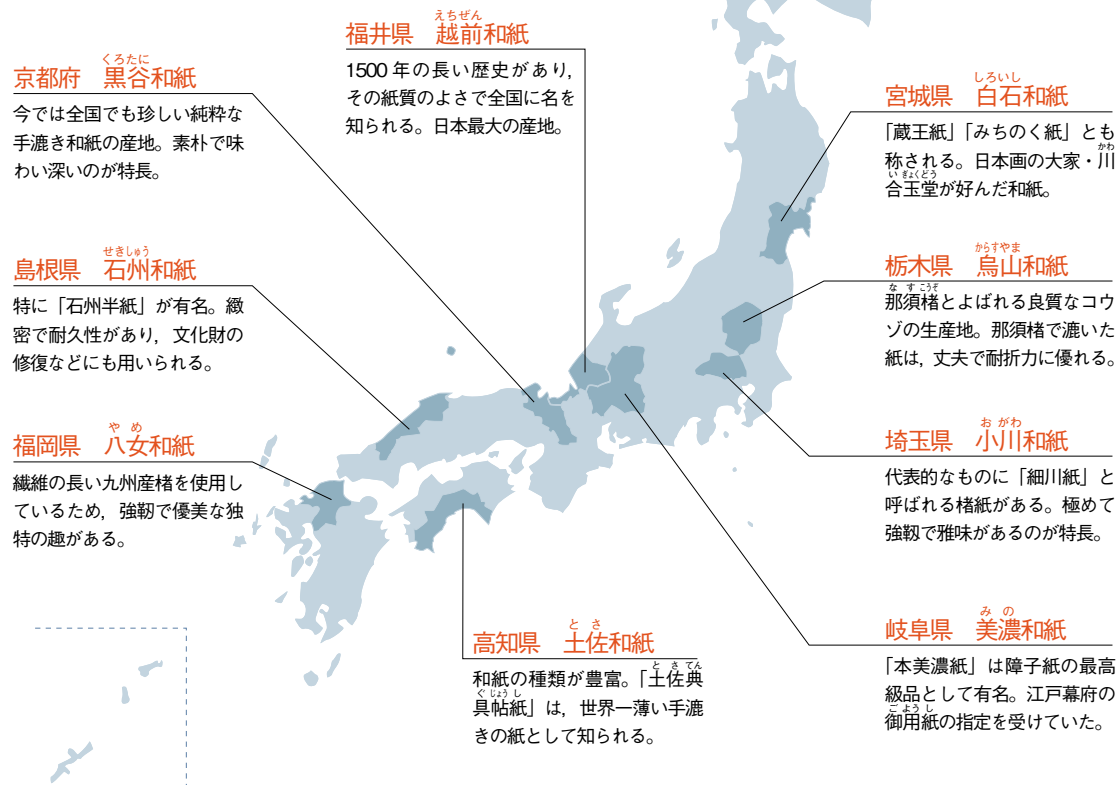
『おとなになれなかった弟たちに……』

は、『多毛留』から七年後の出版である。次の絵本の話は何度も出ていたが米倉さんは腰を上げなかった。ある日突然、戦争中に弟のミルクを盗み飲んだ体験を描くと言ひ、あつという間に描き上げた。それは私にとつてのあつという間で、栄養失調で死んだ弟の話を描くのに米倉さんは七年の間を必要としたのだ。モノクロの素朴な絵だった。わら半紙のような紙に印刷してほしいというのがたつた一つの注文だった。

訃報を聞いたのは白神山地を旅している時だった。マザーツリーと呼ばれている樹齢四百年のブナの大木がぼやけて揺れた。ざわざわと鳴る梢を見ながら思つた。たとえ別の世界に旅立たれても、本が出版され教科書に掲載される限り、米倉さんの強烈な思いは時を超え世代を超えて残り続けるに違いない。読者となつた人々が生き続ける限り、米倉さんの思いも生き続ける、と。

和紙の主な産地

全国には数多くの和紙の産地がありますが、ここでは代表的なものをピックアップしてご紹介します。



2 和紙の原料

和紙の原料は何ですか。

古くは麻なども使われていましたが、現在は、コウゾ（※1）、ミツマタ（※2）、ガンピ（※3）という三種類の木の皮の繊維が多く使われています。それから、トロロアオイ（※4）という植物の根に含まれる粘液を糊として使います。

コウゾは繊維が長く絡み合う性質があり、しっかりとした強い紙になります。墨のにじみやかすれを表現しやすく、漢字を書くときに向いています。ミツマタは、繊維が短く柔軟なので、緻密な紙になります。墨がにじみにくく、仮名を書くのに向いています。ガンピは、繊維が短く光沢があるため、紙の表面が美しくなめらかになります。かな料紙などに使われます。

基本的に、和紙にはコウゾが使われることが多く、そこにミツマタやガンピを混ぜて、なめらかさや繊細さを出します。書道半紙は、原料や漉き方の違いで、随分と書き味が変わります。にじみがふわっと出るもの、かすれが強く出るものなど、さまざまです。中学生のみなさんには、ぜひいろいろな半紙を試してみ

※1 コウゾ クワ科の低木植物。
※2 ミツマタ ジンチョウゲ科の植物。
※3 ガンピ ジンチョウゲ科の植物。栽培が難しく、製紙原料としての供給量は少ない。
※4 トロロアオイ アオイ科の植物。根から粘液が取れ、和紙の原料として使われる。

教えて！紙のこと

今回は、和紙を専門に扱う山形屋紙店（東京都千代田区）へ。明治十三年の創業以来、和紙ひとすじのお店です。宮内庁御用達でもあり、歌会始のときに使う紙などを宮中に納めています。店主の田記有子さんにお話を伺いました。

1 和紙の産地

——いろいろな和紙が置いてありますね。

うちの店では、書道半紙の他、奉書紙、千代紙、障子紙、手芸用和紙はもちろん、便箋やはがきなども扱っています。お店に置く和紙は、なるべく和紙職人の工房を訪れ、職人と話をしながら決めていきたいと思っています。やはり、実際に職人が和紙を漉いているところを見たり、その土地の自然に触れたりすると、和紙に対する愛着が全然違ってきますから。大変ですが、できるだけ工房へ出向くようにしています。

どんなお話が聞けるのか、楽しみだね。

書道半紙はもちろん、障子紙や便箋など、和紙って、身近な存在だね。

イラスト：北村ケンジ

——和紙はどのような場所で作られているんですか。

川の上流付近など、きれいな水のあるところですね。また、暑い場所は和紙作りに向きません。冷たくてきれいな水で和紙を漉くと、締まったよい紙になるんです。

和紙は、全国さまざまな場所で作られています（左図参照）。うちの店を取り扱っているものでは、福井県の越前和紙や、高知県の土佐和紙が多いですね。岐阜県の本美濃紙、埼玉県の本美濃紙、島根県の石州半紙は、昨年十一月にユネスコ無形文化遺産に登録されたので、ご存じの方も多いと思います。



▲便箋やはがきなどが所狭しと並び店内。



1 コウゾを蒸し、皮を剥ぐ

刈り取ったコウゾを同じ長さに切りそろえて蒸す。その後、蒸したコウゾの皮を剥ぎ取る。木の皮は、黒皮、甘皮、白皮の3層から成り、美濃和紙では、白皮を使う。



2 川に晒す

白皮を水に浸し、水に溶けやすい不純物を除いて柔らかくする。昔は「川晒し」といって、川の流れに2・3日白皮を浸した。現在は作業場の水槽で行われることも多い。



3 煮た原料を打つ

白皮を大釜で2時間ほど煮る。その後、水に浸し、手作業で丹念に塵を取り除く。その後、原料を石の板の上に置き、木槌で叩いて繊維をほぐす。現在では、この作業を機械で行うことも多くなった。



4 紙を漉く

叩いた原料とトロロアオイの根から抽出した液を、水の中に入れてよく混ぜ合わせる。そして、その紙料をすくって、簀桁と呼ばれる道具の上で揺すり、均一に広げ、紙の層をつくる。



5 紙を乾かす

漉き上げた紙を、圧搾機にかけて水分を搾り取る。その後、まだ湿っている紙を丁寧にはがし、干し板に張り付け乾燥させる。最後に、乾燥した紙を一枚一枚検品し、規格寸法に合わせて裁断する。

和紙ができるまで

美濃和紙編

長良川や板取川の清流に恵まれた岐阜県美濃市は、良質のコウゾが多く取れ、古くから和紙の産地として知られています。美濃和紙ができるまでの、主な工程をご紹介します。



▲「和紙は、手をかけて作られているもの。大事に使ってほしい」と話す田記さん。

3 和紙のよさ

最後に、和紙の魅力について教えてください。

和紙は、コウゾを刈り取って、それを

てほしいですね。お店に来て「書き初めの半紙を探しています」とか「練習用に気軽に使える半紙が欲しいです」とか用途を教えてもらえれば、いくらでも相談に乗りますよ。
半紙は一帖(二十枚)から売っています。手漉きでも、一帖数百円で買えるものがあるんですよ。時には清書用に、よい紙を使ってみると、気も引き締まるし、いいんじゃないでしょうか。



▲お店で保管されている大福帳(昔、商家で使われていた帳簿)。



▲和紙で作ったはたきは、お店でも販売されている。

蒸して、皮を剥いで……と、作るのたいへんな手間がかかります(P31参照)。だからこそ、独特の美しい風合いがあり、何年経っても変わらない強度があります。よく、和紙は千年もつと言われますが、うちのお店には、明治時代の大福帳(右写真)が残っていて、百年以上経った現在でも、文字がしっかりと読め、紙が擦り切れずきれいな状態を保っています。
みなさんは、書道半紙に書いて失敗すると、半紙をすぐに捨ててしまおうとするでしょう。でも、和紙はとても丈夫なので、ちょっと失敗したからって捨てるのは、もったいないですよ。書く場所がなくなるぐらい、隅々まで書いて、紙に「ありがとね」って言うってから、捨ててほしいなと思います(笑)。
昔は、使った半紙を捨てずに、箱の裏張り紙に使ったり、割いてはたきにして

使ったりしていたんです(右写真)。ぜひ、みなさんにも紙を大事に使ってほしいですね。それが、私たち紙屋さんからのメッセージです。
はい！ 練習用紙一枚も、大事に使っていきたくて思いました。そして、いつか手漉きの上質な紙に書いてみたいと思います。今日は、ありがとうございました。



株式会社 山形屋紙店
東京都千代田区神田神保町2-17
TEL 03-3263-0801
営業時間 10:00 ~ 18:00
定休日 土・日・祝日
URL www.yamataya-kamiten.co.jp

板書の文字、 気になったことはありませんか？

板書している最中、「あれっ、この漢字の筆順はこれでよかったのかな」などと気になったことはありませんか。気になる筆順や点画・字形の書き方は常にチェックしておきたいものです。本書は、国語科書写の教科書に掲載されている、点画の書き方、筆順、字形のポイント、行書の書き方などをふまえ、これらがひと目でわかるように編集されています。書写の指導資料としてはもちろんのこと、毎時の授業における板書文字のチェックには最強の味方になってくれるはずです。（宮澤正明／山梨大学教授）

好評発売中！

新・字形と筆順

光村図書の書写ハンドブックの決定版！
21年続くロングセラーが、リニューアルして登場
新常用漢字（2136字）にも書き文字で対応

委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	圧	悪	愛
委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	圧	悪	愛
委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	圧	悪	愛
委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	圧	悪	愛
一 ニ 千 米 委 委	一 ア マ 石 天 医	一 門 月 同 開 開	一 イ イ 仁 仲 位	一 ム オ 衣 衣	一 レ 以 以	一 日 日 暗 暗	一 ハ マ 安 案 案	一 ハ マ 安 安	一 厂 厂 圧 圧	一 ハ ハ 悪 悪	一 ハ ハ 愛 愛
イ	イ	イ	イ	イ	イ	暗	案	安	圧	悪	愛
イ	イ	イ	イ	イ	イ	暗	案	安	圧	悪	愛

- 光村図書「書写」教科書編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に間違えやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も！

宮澤正明 編
定価 本体1,800円＋税
360ページ 四六判
ISBN978-4-89528-679-4



あの名作をもう一度

『光村ライブラリー』と 教科書クロニクル

「中学校のときに習ったあの作品が忘れられません。タイトルを教えてください」
「今、自分の子どもに読んでもらいたくて、教科書で読んだあの作品を探しています」
などなど、過去の『国語』教科書に掲載されていた作品や文章についてのお問い合わせをいただくことがよくあります。子ども時代に教科書で出会い、そのときにはよくわからなくても、大きくなってから何かの折にふっと思い出してもらえる。それは、私たち教科書を作る者にとって幸せな出来事です。

名作のアンソロジー

光村図書発行の『光村ライブラリー』（全5巻）では、過去の教科書掲載作品のうち、先生方や子どもたちに高い評価をいただいたものを精選し、アンソロジー形式で収録しています。「あの坂をのれば」（第3巻）、「ラスコー洞窟の壁画」（第4巻）など、教科書で出会ったなつかしいあの作品にもう一度めぐり会うことができます。



⑤ 光村ライブラリー（全5巻／各巻定価1,080円）

昭和30年度版から平成14年度版までに、中学校『国語』教科書に掲載された作品の中から71点を収録。

記憶をたどるクロニクル

光村図書ウェブサイトの「教科書クロニクル」のコーナーでは、過去の教科書に掲載された作品を年代ごとに一覧することができます。あの頃、自分が携えていた教科書にはどんな作品が載っていたのか、記憶をたどってみませんか。作品とともに、なつかしい思い出がよみがえってくるかもしれません。

④ 教科書クロニクル

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/chronicle/chugaku>

	1年	2年	3年
昭和20年度版 (昭和19年～昭和20年使用) 主文で掲載			
昭和24年度版 (昭和23年～昭和24年使用) 主文で掲載			
昭和27年度版 (昭和26年～昭和27年使用) 主文で掲載			
昭和34年度版 (昭和33年～昭和34年使用) 主文で掲載			
昭和37年度版 (昭和36年～昭和37年使用) 主文で掲載			
昭和39年度版 (昭和38年～昭和39年使用) 主文で掲載			